

カルメル

霊性センターニュース



宇治カルメル会修道院

2020年1月

360号

【教会からの言葉】

「イエスにお目にかかりたいのです」(ヨハネ12章21節)

今最も重要なこと、第一のことを、口にせずにはいられないことを、お伝えしたいと思います。誰もが、いつでも、頻繁に、耳に入れておくべき、三大真理を含むメッセージです。

☆一つ目の真理:愛である神:「神はあなたが大好きなのです。人生に何があるうとも、決してこれを疑ってはいけません。いかなる状況にあっても、あなたはどこまでも愛されているのです。」(112)

☆二つ目の真理:キリストはあなたを救う:「キリストは愛ゆえに、あなたを救うためにご自分を与えつくしたということです。『世にいる弟子たちを愛して、この上なく愛し抜かれた』(ヨハネ 13・1)」(118)

☆三つ目の真理:このかたは生きている:「このかたは生きている——。これはたびたび思い浮かべなければならないことです。わたしたちにはイエス・キリストを昔いた、見習うべき人物として、過去の記念として、二千年前にわたしたちを救ったかたとして、ただそれだけの人物としてしまう危険があるからです。」(124)

(フランシスコ教皇 使徒的勧告 『キリストは生きている』より)

目次

教会からの巻頭の言葉	1
目次	2
心の泉	3
カルメル会の企画案内	25
東京	26
京都	30
名古屋	32
北陸	33
諸所の企画案内	35
通信深読お申込みのご案内	43
郵送お申込みのご案内	44
あとがき	45

心の泉



宇治カルメル会修道院



第三卷

第二十四章 好奇心にかられて、他人のことを探ってはならない

1 主

《子よ、好奇心を捨てなさい。よけいな詮索をするな。このことやあのことが、「あなたと何の関わりがあるのか？あなたは私に従おうと努めなさい」(ヨハネ21・22)あの人はこうだ、この人はああだ、彼はあんなことやこんなことをする、それがあなたにとって何なのか。あなたは他人のことに責任をもっていない、自分自身の責任が問われるのである。それなのになぜ、他人のことに口を挟むのか？私だけがすべての人を知り、この世で起こるすべてのことを知っている。そして、一人ひとりがどうしているか、何を考えているか、何を望んでいるか、何を目的としているかを知っている。だから、それらのことは、私に任せなさい。あなたは、心の平和を保つように心がけなさい。落ち着かない人には、思いのままに騒がせておきなさい。彼らがおこなったり言ったりすることは全部、彼らの上にはねかえってくるであろう。私をだますことのできる人間はいないからである。

2 よけいな心配事

影のような名声や、多くの親しい人や、特別なひいきを気にかけるな。これらのことは人の心を迷わせ、暗くするにすぎない。あなたが忠実に私の到来を待ち。心の扉を開くなら、私は喜んで、あなたに私のことばを聞かせ、多くの神秘をあらわそう。「賢明でありなさい。祈りつつ警戒しなさい」(一ペトロ4・7)。そして、すべてを、謙遜の実行の機会としなさい。》

2020 新しい年にあたって神の祝福をお祈り申し上げます。

新しい年が「よい年」となりますように！



何をしようと、どんな状況においても、
どのような場所に置かれようと、
聖家族のように
常に父である神に信頼と希望を置いて…
「よい一日、よい年」を
過ごすことができますように。

神に向かうには希望という翼が必要です。

希望こそが 神へ向かってわたしたちを歩ませてくれます。

わたしたちにとって希望は、鳥にとっての翼 といえるでしょう。

渡り鳥は 果てしない海を飛び越えて移動します。

でも、アヒルはときとして羽ばたくことがあってもせいぜい池の周辺です。

大海を渡らなければならない鳥は 強い翼をもっています。

それで一日中でも

飛び続けることができるのです。

わたしたちも大きな希望をもつなら

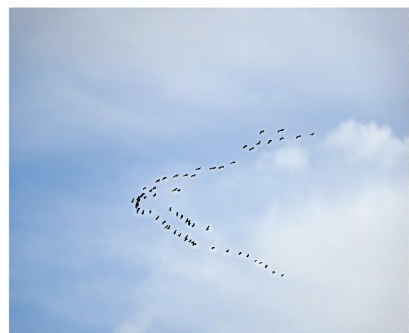
しっかりした翼で 遠距離を飛ぶ鳥のようです。

でも わたしたちはたびたび

小さなアヒルのように ガアガア鳴きながら

池のまわりを

ウロウロしているかもしれません！



この新しい年を「よい年」とするために、

大きな希望をもって神に向かって歩み続けましょう。

神の慈しみに希望を置く強い翼をもって。

父なる神は常に 愛のまなざしをわたしたちに注いでくださいます。

わたしたちの弱さや心理的状况のうちに、それ故にこそ

神の愛のまなざしはわたしたちに常にそそがれています。

伊従 信子 (いよりのぶこ)

ノートルダム・ド・ヴィ

創造主への賛美 (27)

くのり 彰
九里 彰

この世では、人は絶えず優劣を競う。それは、上に立つ優れた者は、下にいる劣った者より、経済的に裕福になり、普通の人よりはるかに快適な生活が保障されるからであろう。各分野で世界のトップに立てば、着る物、食べる者、住む家、すべてにわたって、贅沢三昧、お金だけでなく、地位や名誉も与えられ、自分のしたいことがいくらでもできるのである。そこで、だれもが上に立とう、偉くなろうと躍起になるのである。

しかし、このような心の世界では、神を賛美することはできないだろう。関心は、自分と他者の上下・優劣関係であって、神との関係ではないからである。そして、少しでも「人に差をつけよう」、「人より上に立とう」とする思いは、人に差をつけられれば、心の中に「ねたみ」や「ひがみ」を引き起こし、首尾よく差をつけたとしても、今度はその人を軽視したり、馬鹿にしたりする態度になると考えられる。

ところが、人数の少ないグループでは、自分の優位を保ち、「お山の大将」でいることができるが、さらに大きな輪の中では、自分よりさらに優れた人がいる可能性がある。その輪を地方、国家、世界と広げていけば、小さな輪の中で優れた人もただの人となる。この輪の広がりには空間的だが、時間的に広げれば、過去現在未来の人類の歴史の中での話となる。今、世界でトップに立ったとしても、過去にはより優れた人がいたかもしれない。また、未来により優れた人が登場してくる可能性がある。要するに、人と人を比較し、「上だ」「下だ」と、人が人を評価しているにすぎない。

原罪の物語は、「神のように善悪を知る者となろう」する人の欲望が、禁断の木の実を食べるといふ罪を引き起こさせたことを告げている。この欲望は、自己賛美の欲望となっていく。

アダムとエバは、カインとアベルをもうける。この二人の兄弟の物語は、原罪がもたらす結果であり、人類の罪の歴史の始まりとなる。

アベルは羊を飼う者となり、カインは土を耕す者となった。時を経て、カインは土の実りを主のもとに献げ物として持って来た。アベルは羊の群れの中から肥えた初子を持って来た。主はアベルとその献げ物に目を留められたが、カインとその献げ物には目を留められなかった。カインは激しく怒って顔を伏せた。(創4・2~5)

「目を留められる」ということは、「注目される」ということであろう。「献げ物」とは、それぞれの人間の働きとすれば、カインは自分の働きと自分自身を無視されたと感じたと思われる。(続く)

十字架の聖ヨハネのこぼれ話 (142)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

「自然と十字架のヨハネの関係」(4)

*グラナダで聖ヨハネの修練者であった聖アンヘロのルイスは、1583年着衣し、聖なる修練長についてこう触れています。

「神のしもべは、天への愛に燃え、熱烈に祈りに身を捧げていたので、観想のために適した密かな場所をていねいに探していました。こうして、くだんの神のしもべは、彼の修道院に導入した最初の夜の祈りに果樹園に出、他の修道者たちも同じように、木々の中へと導きました。大きな孤独がグラナダの修道院にはあり、彼らは敬虔さと静けさをもってそこにとどまりました。そして朝の祈りでは、禁域のもっと内部にある菜園へと彼らを出て行かせました。本証人は、この時、他の時と同じように、小さな洞穴のような、階段のくぼみに身を置こうとしている聖人の音を聞きました。そこから、観想と祈りの中で、天や野原の大部分が見えたのです。」(ms. ヴァチカン 2867, fol. 50v)。

*コンセプションのアウグスチヌスは、十字架の聖ヨハネが修道士達を野原へ連れ出していたこれらの日々のある日ことについて語っています。ヘニル川かダッロ川の前で彼がどのように物思いにふけていたか述べています。彼は兄弟なる小さな魚たちに見て興奮し、夢中になり、急いで修道士たちを呼び集めて言いました。

「兄弟たちよ、こちら来なさい。これらの小さな生き物、神の被造物が、霊を奮い立たせるために、どのように賛美しているかをご覧ください。彼らは悟性も理性もないのにそうしているのです。まして私たちは神を賛美する義務をどれほど負っていることでしょう」。この話をしながら、彼は茫然としていました。このことに修道士たちは気づき、彼から離れ、菜園を通過して、観想の中に彼を置き去りにしました。くだんの共同休憩を楽しく過ごしながら、菜園にいることができる時間には気がつきませんでした。

これらの証言の年代記は、それほど重要ではありません。祈りの、また神へと昇る乗り物としての自然を前にした靈的傾向は、いつも同じものです。

A年 主の公現

(マタイ2：1-12)

今日は主の公現をお祝いします。クリスマスでは、救い主キリストがこの世の暗闇を打ち払う神の光としてこられました。そして主の公現では、誕生したユダヤの王を拝むために東方から訪れた三人の博士（占星術の学者）に代表される全人類に対し、主が現れた神秘を祝います。イエスは、万民のため、特にユダヤ人以外の者のために現れた救い主です。異邦人であった三博士は、輝く星を見て、預言されていた王の誕生のしるしであると解釈し、その星に導かれてエルサレムまでたどり着きました。星は、全世界の光であるイエスの象徴でもあります。

三博士は、星をたどる長くて苦しい旅路の末にイエスを見つけました。彼らは生まれたばかりの王に出会えたことを喜び、黄金、乳香、没薬の3つの贈り物を献げました。これらは全部、王様に通常贈られる品です。黄金は高価な貴重品、乳香は香料、そして没薬は死者の清めの品です。しかしカトリックでは、これらの贈り物には霊的な意味が大いに込められています。黄金は地上における王権、乳香は祭司による奉納、そして没薬は埋葬のしるしであり、イエスの生涯、使命、死を示しています。三博士の訪れを通じて、異邦人や羊飼いとといった高貴な生まれではない人や貧しい人によって誕生した王が迎えられたものの、神がまず救おうとしたヘロデ王等を含む民からは拒絶されたことが分かります。

三博士が、王である幼子イエスに贈り物を渡した後、持参品よりもはるかに価値のある一番尊い宝物を持ち帰りました。それは、イエスが何者であるのか、という神からの知識です。博士達は、イエスとの出会いによって富む者とされました。そのため、この出会いの後、自分達の神体験の真理を通じて、他者をも豊かにすることができるのです。三博士こそ、希望のうちにイエスに向かって行き、イエスのうちに自分の心の望みがすべて叶えられる旅人の模範です。三博士は、イエスを見つけた後、ユダヤの地にとどまらず、それぞれ自国に戻ります。イエスへの信仰は、特定の国や場所に縛られずに、分かち合う贈り物だからです。主の公現では、私達が一人残らず神に愛された子であることが明らかになります。そして神にとって「外国人」や「よそ者」など一切存在しません。イエスは分け隔てなく一人ひとりに等しくご自身を現わされます。イエス、あなたに感謝します！皆様、どうぞ恵み豊かな主の公現の日をお迎えください！！

(Sr.Paulina)

主の洗礼の祝日

(マタイ 3・13－17)

イエスが洗礼を受け、水から上がられると、天が開き、神の霊が鳩のように降って来ました。そして「これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」という声が天から聞こえました。

この後、イエスは荒野での試練の時を経て福音を宣べ伝えはじめます。父の愛する子供として、神の霊の力で、悪霊に取りつかれた人や病にある人を助け起こしていきます。また、罪人をゆるし、父の愛を人々に教えていかれます。同時に、ファリサイ派や律法学者たちからは異端視され命を狙われはじめます。やがて時が来ると、エルサレムで受難に遭い、屠られる子羊のように十字架につけられて、死に、墓に葬られました。ところが、週の初めの日、三日目に、墓は開かれ、永遠の光が射し込んだのです。

洗礼を受けた時、イエスの上に天が開きましたが、イエスはその恵みをすべての人にも与えるために、死者の中から復活して天を開いたのです。洗礼によって公生活を開始したイエスは、「受難、死、復活という洗礼」を具体的に成し遂げ、私たちにその恵みを残して天に帰られました。

復活したイエスは弟子たちにこのように命じました。「あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にきなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を受け、あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」(マタイ 28・19-20)。

私たちは、このイエスが生涯をとおして成し遂げた洗礼にあずかります。「洗礼によってキリストと共に葬られ、その死にあずかり」、「わたしたちも新しい命に生きるためです」(ローマ 6・4)。

イエスの洗礼の時に天が開き、霊が注がれ、父の愛の声が聞こえたように、私たちの上にも永遠の国の扉が開かれ、霊の絆に結ばれて、神の愛する子供となるのです。罪を犯したアダムは楽園から追放され、原初の恵みを失ってしまったのですが、新しいアダムであるイエスは、この楽園の扉を私たちの上に開いてくださったのです。洗礼、それは、イエスが父の子供としてその愛の霊に包まれて生きたように、私たちも同じ豊かな愛により希望の力をいただける恵みなのです。

イエスが最後まで、父の愛に促されて人々に奉仕したように、私たちも愛に生きることができるよう。イエスが苦しみと死を通過して父のもとに達したように、私たちも、私たちに与えられた十字架を通過して人生の目的地に到達することができるよう。この洗礼の豊かな恵みの中を歩いて行きましょう。

(今泉健神父)

年間 第2主日 (A)

(ヨハネ 1 : 29 - 34)

ヨハネの福音では、イエスの公的生活はヨルダン川近くで洗礼者ヨハネの証しによって始まります。当時、多くの人にはイエスが誰であるか理解していませんでした。今日の福音の中で「世の罪を取り除く神の子羊！」というヨハネの証言を読みます。洗礼者ヨハネは、この若者は神の選んだ方であると理解しています。ナザレのイエスは、「神の子羊」、すなわちイザヤ書の主の僕、過ぎ越しの子羊のように苦しみ、他者のために殺される者なのです。

神の子羊の証人としてヨハネは、誇りに思うこともなく、優越感を感じることもなく、謙虚で柔和でした。ヨハネはイエスを自分よりすぐれた者とみていました、イエスが「自分より先におられた」方だからです。洗礼者ヨハネは「わたしの後から一人の人が来られる。その方はわたしにまさる。わたしより先におられたからである。」と語っています。イエスは初めから存在し、肉となった言葉です；万物はイエスにおいて命を持ちました。イエスがヨハネから洗礼を受けることに関して多くのことは述べられていませんが、洗礼者ヨハネは神の霊がイエスの上にとどまったとって洗礼の意味を説明しています。ヨハネは、「私はその人が神に選ばれた者であることを証しするものである」と言ってイエスのペルソナの神秘を他の人に明らかにしています；。確かにヨハネは神に送られた人です。ヨハネはイエスについて「わたしはその人を知らなかった」と語っています。誰も自分でイエスを知ることにはできません。ヨハネはイエスについての真理が明らかにされたので分かったのです。

私たちは、ヨハネの中にイエスがどなたであるかを確信する真理、その真理を擁護する真理を見ます。ヨハネは光の証人ですが、光ではありません。ヨハネは、神の子羊についての真理を他の人に証言した多くのイエスの証人の初めの人です。私たちキリスト者は皆聖霊において洗礼を受けたのですから、私たちは皆キリストの証人となる責任があります。私たちはイエスの愛を分かち合い、他の人にイエスのメッセージを分かち合うように呼ばれています。他の人をイエスの導き、私たち皆がイエスに愛され救われるために、イエスが「世の罪を取り除く神の子羊」であることを知らせるように呼ばれています。

(Sr. Paulina)

年間 第3主日

(マタイ4：12-23)

今日の福音ですが、イエスが荒れ野で悪魔から誘惑を受けた後に、宣教を始められた時のことが語られています。イエスは、洗礼者ヨハネがヘロデ王によって捕えられたと聞いてガリラヤに退かれました。このことによって預言者イザヤを通して言われていたことが実現しました。このガリラヤは異邦人が何度も支配したこともあった様ですが、イエスが活動された時代には、再びイスラエルの地域になっていました。

イエスの宣教活動の初めが、イスラエルの政治的・宗教的中心、エルサレムではなく、イスラエル最果ての地、異邦の地に隣接する異邦の色彩の強いガリラヤから始められたことは、神の救いがエルサレムから遠く離れた、忘れ去られた様な人々にももたらされ、神の救いが異邦へ広がってゆき、全世界へ広がっていくことを暗示しているのでしょうか。

イエスはこのガリラヤで弟子たちをお呼びになります。イエスが人々をご覧になられ、これはと思う兄弟に「わたしについて来なさい」と呼びかけをなさり、呼びかけられた兄弟たちは従ってゆきます。最初の兄弟は、漁師シモン（ペトロ）とアンデレでした。そして次の兄弟は、ゼベダイの子ヤコブとその兄弟ヤコブでした。

何れもイエスはガリラヤ湖のほとりを歩かれ、進み、兄弟たちの様子をご覧になられ、声をかけると、網を捨て、舟と父親を残して、従ってゆきます。イエスをご覧になって、呼ばれることによって、生き方が変えられ、そしてその呼び掛けに応えることによって、イエスの弟子となって歩んでゆくわけです。

私たちは一人一人、イエスから呼ばれ、それぞれの道を歩んでいます。家庭を捨てる、独身を捨てる、今日の福音に出て来る様な弟子の様に呼ばれる方々もあるでしょうし、また結婚して子どもをもうけて、次の世代に生命をつないでゆくことに呼ばれる方々もおられることと思います。

イエスが私たちをご覧になって下さり、私たちがイエスの言葉に耳を傾け、私たちの生き方が変えられ、イエスに従ってゆくことができます様に。互いに祈りあいながら、ともに願いながら、ご一緒に歩んでゆきましょう。

(Fr. 古川利雅)

いのちの言葉 1月

島の住民たちは私たちに、ひとかたならぬ親切を示してくれた
(使徒言行録 28. 2)

2週間にわたる漂流の果て、276人を乗せた船は、地中海の孤島にたどり着きました。彼らはみな、極度に憔悴し、大自然の驚異にさらされ死を目前にし、恐怖におびえていました。その中に、皇帝から裁判を受けるためにローマに向かって旅を続ける一人の囚人がいました。

もちろん、これは、私たちが今ニュースで聴くような出来事ではありません。福音の宣教者として、その使命を殉教によって全うするため、ローマに向かう使徒パウロ自身の体験です。

パウロは、神のみ摂理に対する揺るがぬ確信をもっていました。彼は、囚人の身でありながら、船がマルタ島に辿り着くまで絶えまなく、漂流する他の仲間たちを励まし元気づけました。

島の住民たちは、火を焚いて寒さに凍える彼らを温かく迎え、冬の間、親切にもてなしてくれました。やがて、三か月ほどその島に留まった後、パウロとその一行は無事に島から出航することができました。住民たちは旅立つ彼らのために必要な物資を船に積み込んでくれました。

島の住民たちは私たちに、ひとかたならぬ親切を示してくれた

パウロとその一行は、福音をいまだ知らないマルタの人々から手厚いもてなしを受け、助けられる体験をしました。その場限りのものではなく文化や宗教、社会的な偏見にも一切とらわれない温かいもてなしを受けたのです。島民たちは個人的にも、そして、共同体としても、困難にある彼らを心から受け容れてくれたのでした。

この「他者を受け容れる能力」は、実に、すべての人間のDNAの中に在ります。信仰がある無しには全く関係なく在るものです。憐み深い御父の似姿として造られた人間の心に刻まれている「掟」です。

アブラハム¹の時代から、イエスの「私が旅をしていた時に、宿を貸してくれた」²というあの衝撃的な啓示の内にもみられるように、神のみ言葉は、常に人の心に記されたこの掟に光を当て、価値あるものとしてきたことが見て取れます。

私たちはとても弱い存在ですが、神ご自身の恵みゆえに、愛を全うできるよう私たちにもその力と助けが与えられているのが分かります。

パウロは、又、このマルタ島での体験を通して、み摂理を通して物事に介入される神様に信頼を置くよう私たちに教えてくれます。

そしてさらに、人生の中で出会う多くの人々の具体的な愛をとおして与えられる沢山の善い物に私たちが気付くように、そして感謝するようにと教えてくれます。

島の住民たちは私たちに、ひとかたならぬ親切を示してくれた

今月のみ言葉は、2020年1月に催されるキリスト者一致祈禱週間³のためにマルタ島の諸キリスト教会の方々から提案された、使徒言行録の1節です。

マルタの諸教会は、貧しい人々、移民の人々を助けるために協力し合い、食べ物、衣類、子供たちの玩具などを調達、また社会生活ができるよう彼らに英語を教えたり、さまざまな活動をしています。マルタの諸教会の一番の望みは、これからも一層この受け容れる姿勢を強めること、そして、唯一の信仰を外に向かって証しするために、お互いの間の交わりを深めていくことです。

では、神様の愛をどのように兄弟に証しできるでしょうか？一致した家庭、一つの連帯した町、真に人間らしい社会を築いていくためにどうすればよいのでしょうか。キアラ・ルービックは、こう語っています。

「イエスは、あるがままの私たちを受け容れて下さり、相手があるがままに受け容れることが愛だと分かせて下さいました。相手の好みや考え方、欠点や違いでさえも、すべて受け容れる心構えです。相手に対する警戒心や偏見をなくし、拒絶ではなく、逆に、相手にスペースを与えることを意味するでしょう。

そして分かることは、私たちが努力して隣人を受け容れる時以上に、神に大いなる栄光を与えることは他にない、ということです。こうして、兄弟的な交わりの土台が築かれるからです。人々の間に真の一致がきずかれること以上に、神に多くの喜びを与えるものは他にはありません。

ご存知のように、一致は私たちの間にイエスの存在を招きます。このイエスの存在には、あらゆる物事を変えていく力があります。ですから、あらゆる隣人に対して心を尽くしてこの人を受け容れよう、この人との間に、たとえ時間がかかろうとも相互愛を実現しよう、という望みをもって接するよう努めてみましょう。」⁴

レティツィア・マグリ

連絡先：フォコラーレ東京 03-3330-5619/03-5370-6424 長崎 095-849-3812

E-mail:tokyofocfem@gmail.com

ホームページ: <https://www.focolare.org/japan/>

¹ 創世記 18、1-16 参照

² マタイ 25、35 参照

³ キリスト者一致祈禱週間は毎年1月18日から25日まで行われる。

⁴ キアラ・ルービック、1986年12月のいのちの言葉

昨年11月、フランシスコパパ様が日本においでになりました。
先のヨハネ・パウロ二世パパ様以来38年ぶりのローマ教皇来日とあって、新聞テレビの報道は大々的であり、ある種の高揚というのでしょうか、そのどれもが期待に満ちた熱気と言っていいものが感じられるものでした。
それにしても大変な過密スケジュールの3泊4日でしたが、それぞれの地でよるこびに溢れる熱い歓迎をお受けになり、たくさんの人々に忘れがたいお姿とお言葉を強く残されました。それは私にとっても、目に耳に心に魂にしっかりと刻まれるものでした。

私はパパ様の「追っかけ」をしました。(新聞とテレビですが)
関連記事を切り抜いてファイルに挟み、テレビの番組表をつぶさにチェックしてはリモコンを忙しく動かしたりして、挙句にはテレビ画面のパパ様のお姿をスマホで撮ったりの大わらわ。まさにスターを追いかけるファンの心境さながらの恰好ではありました。

最初の訪問地長崎は、あいにく当日は朝から雨が降りしきり、強い風が吹いていました。パパ様は飛行機のタラップを傘もささずに、傍らに付き従う人もなく、雨に濡れながらただ一人で降りてこられました。白い法衣が雨と風にひるがえり、はためき、けれどもパパ様は少しも気になさる様子はありません。

私はいきなりのこの光景に妙に心打たれてしまい、息がつまるような言い難い強い感銘を受けて、一瞬たじろぐ思いを覚えたのです。どうなのでしょう、この荒天の中にあまりにも静謐であるというのか、あたかも突如現れた別次元の静止画を見ているような、ある種茫然自失というのか、それとも恍惚というのか、何とも不思議な強烈なファースト・インプレッションでした。

日本にはご幼少の頃から深い関心をもたれていて、若い日には日本への勤務を望んでおられたとか。また、遠藤周作の「沈黙」もお読みになり映画もご覧になっておられるという記事には、とても心惹かれました。

訪日のテーマは「すべてのいのちを守るため」。具体的には戦争と核兵器廃絶と死刑制度の問題が大きくありましたが、日本の国にとって、今の私たちにとって、これほどの痛切な課題もまたとないと言えるでしょう。長崎、広島、島の地にあつてのパパ様の祈られるお姿、お声、そしておことばは、天啓とも思える

ものであり、私は思わず居住まいを正してテレビ画面のパパ様を凝視し続けたのでした。

死刑制度の問題も私自身深い課題としていつも心にあり、これまでも当欄に何度か触れてきましたが、ほんとうに何という痛切な苦しい課題であるのでしょうか。国民の8割が死刑という制度に反対していないという現状には、日本という国固有の深い要素もあるかと思うのですが、「排除されていない」から「許容できない」に改訂されたカテキズムを、全身全霊をもって噛みしめ、いま一度祈りをもって深く思い巡らすことだと思っています。

切り抜いた新聞の記事をあれこれと読むなかに、とりわけ心して読み返したものがあります。森司教さまの談話として載っていたのですが、フランススコパパ様の神の捉え方が「あわれみの神」であり、そのもとの言葉はギリシャ語の「スプラנקニゾマイ」で、はらわたが打ち震えるという意味であると説明がされていました。「スプラנקニゾマイ」は実は私にとってほんとうに大切なことばであり、主イエズスの私たちへの想いをこの言葉で知ったとき、こだまのように私のはらわたも打ち震える感じがしたのです。知識も学問も皆無であるのに私は聖書にこの言葉をギリシャ文字で書き込んでいて、この単語が使われている箇所には傍線を記しています。聖書勉強会で知り得た限りを切なる思いで確かにする若かった頃を思い出します。

パパ様は人間の現在の痛ましい状況に「神は責任を感じています」と文書に記されたといわれます。無性に悲しい気持ちです。私たちは神さまのあわれみのもとで、何としてでも平和を築き幸せに暮らして、神さまを安心させてさし上げたいと心底切望してやみません。

『世界は相互に結ばれており、共通の未来のためにそれぞれが排他的利益を後回しにすることが求められている』　きっと私たち一人ひとりの心のありようにかかっているのです。それは私たちそれぞれの、私の、いまここにあるこの問題に対してのことでもあるでしょう。

キリスト者とはどこかでどのようにか必ず主イエズスの面影をやどしていると思うのです。子どもが親から遺伝子を受けとるように。

フランススコパパ様はほんとうにほんとうにその通りでした。

おいでいただいてとてもうれしく感動しました。

(上野毛教会信徒)

糸巻き棒からペンへ(49)

現代人のためのイエスの聖テレジアの教え

エドゥアルド・サンス OCD

はっきりしていることは、聖ヨゼフ修道院の修道女たちが、キリストへの奉仕に全面的に自分を奉献しているということでした。彼女たちの存在の中心・根拠は、キリストであり、彼女たちが行なっている事柄でも果たしている聖務でもありませんでした。イエスは彼女たちの友であり、同伴者であり、花婿なのです。彼と共に楽しもうとし、彼をいつでも慰めようと準備し、彼のために死んでもかまわないといった態度です。彼に仕えるために、彼を愛するために身を捧げていたのであって、キリストとの一致に役立つ限りにおいてのみ有益である特定の信心業とか宗教的活動の実践のために身を捧げていたのではなかったのです。

何よりもまず、聖ヨゼフ修道院の修道女たちは、最高 13 人の女性からなる「キリストの小さな学び舎」でした（主を囲む使徒たちのように 12 人と院長。けれども後には、21 人まで数は拡張されました）。少人数でしたが、確固とした召命を持った人々でした。この人かあの人かを受け入れるために、外的圧力に屈しませんでしたし、聖女が言うように「癒し」を求めている人を受け入れませんでした。その生活様式に自由に参加したいと望む人、その生活に適性がある人のみが入るよう、志願者たちは、非常によく選ばれていました。「お金などの財産を持っていないゆえに修道女になりたいと来る者を、決して受け入れず、徳の財産を持っているものを受け入れるように」と、聖女は繰り返し姉妹たちに主張しました。聖女にとって、良い家柄とかたくさんのお金よりも、良い理解力（判断力）を持っているかどうかの方がより重要なことでした。

テレジアは、新しい生活を始めたしるしとして、名前を変えました。もはや「ドニャ・デ・セペダ・イ・アウマダ」ではなく、「イエスのテレジア」となりました。彼女の仲間たちも、民法上の姓を、修道名へと変えました。彼女たちの間では、皆が同じ天の父の娘であり、同じ主イエスの花嫁であり、平等と考えられていたので、家柄とか出自はどうでもよいことだったのです。原則として、親密で単純な兄弟性の生活が求められていたため、助修女も召し使いも、高貴な階級に属することを示す称号も認められませんでした。「ここでは皆が愛し合わなければならず、皆が好意をいただき合わなければならず、皆が助け合わなければなりません」と、テレジアは書きました。

(P. 九里訳)

跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com>
の記事を紹介します。

<< **Communications** (時事通信) >>

2019年12月8日

“私たちのカリスマの宣言” 研修会



2019年9月11日付の総長顧問会の9月書簡で報告しましたように、2015年のアピラでの総会後に始められた私たちの法律の再読プロセスの内容範囲と、2019年のゴアの総長顧問会で承認された事柄を考量し、総長顧問会は“私たちのカリスマの宣言”の試案を準備しました。

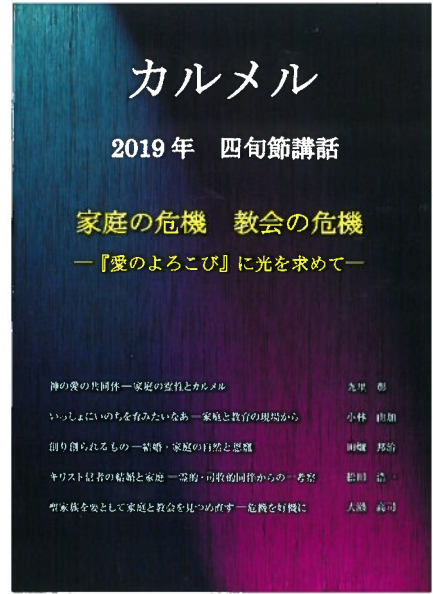
それは、このプロセスの第一段階であった「会憲の再読」の期間に、跣足カルメル修道会の全統括地域から提出された提案を大きく反映させたものです。

この草案推考の第一ステップは、すでに前述の書簡で示されたように、跣足カルメル修道会の全統括地域の各地区で招集された30歳から45歳の修道者グループによる再読と研修をすることでした。

第一回の研修日程はラテンアメリカのコロンビア、ビージャ・デ・レイバで、ラテンアメリカとカリブ諸国から25名の修道者が、総長顧問会のアウグスティ・ボレロ神父とハビエル・メナ神父と共に集まり行われました。

参加者たちはこのように集まり、研修会において、ともに前進するため、“私たちのカリスマの宣言”に良い評価を結集するため、そして皆が自分たちの統治地域でその結果を分かち合えるよう真剣に取り組めるようにするために、最も有益な祈りと兄弟愛と勤勉な雰囲気のうちに行われました。

(訳：小宮山延子)



2019年 秋号 No.374

《祈りを学びたい人のために》**
 信仰生活(再)入門 テレーズと共に歩む 幼子の道(7)
 —祈りを始めるために(3)主の祈り
 片山はるひ
 パウロの祈りに学ぶ(3)感謝とキリストの愛をたたえる祈り
 —コリントの教会への手紙 I 田畑邦治
 エディット・シュタインが教える祈り(II) 須沢かおり
 現代社会において 祈りの人となるには(3) 九里 彰

 風に吹かれて(21)—妖怪サトリ
 原 造
 キリストに伴われて季節を巡る(7) 伊従信子
 イエスの聖テレジアの聖体(エウカリスティア)への信心
 松田浩一
 六十年を遡って恋をする 森 みさ
 カルメル会の会則に見る
 アシェーシスと修道生活(7) 九里 彰

2019年 特集号

「家庭の危機 教会の危機」
 —「愛のよろこび」に光を求めて—
 神の愛の共同体—家庭の霊性とカルメル 九里 彰
 いっしょにいのちを育みたいなあ 小林由加
 —家庭と教育の現場から
 創り創られるもの—結婚・家庭の自然と恩寵 田畑邦治
 キリスト信者の結婚と家庭 松田浩一
 —靈的・司牧的同伴からの—考察
 聖家族を要として家庭と教会を見つめ直す 大瀬高司
 —危機を好機に

【ご案内】 1冊 520円 A5サイズ 50~70ページ

サンパウロ・ドンボスコ書店・イグナチオ教会案内所・上野毛教会信徒ホール本コーナー・
 各カルメル会黙想の家 他にてお求め下さい

- 送付ご希望の方は、700円【520円 (+送料 180円)】程度の献金を下記へお振込み下さい
- 年間での継続送付ご希望の方は、年会費(年5冊:春夏秋冬+特集号 計 3,500円)を
 下記へお振込み下さい

郵便振替:00190-4-195457 跣足カルメル修道会

- お問い合わせは、事務担当:今泉ヒサエ宛に上野毛修道院へ手紙かファックスで。

〒158-0093 世田谷区上野毛 2-14-25 Fax:03-3704-1764

又は E-mail: hisa_ima520@ezweb.ne.jp

2020年のご案内

年間テーマ 手をとりあい、白ら歩み出す



大瀬高司 師

好評の2019年の連載「カトリックの信仰を生きた愛国者・ステファノ山本信次郎」に引き続き大瀬高司神父の新連載が始まります。

●近代日本の歩みとカトリック教会
——山本信次郎研究ノートより
大瀬高司（カルメル修道会司祭）

山本信次郎研究で得られた成果から、近代日本のカトリック教会での出来事や人物を取り上げ、これまであまり知られていないエピソードを中心に紹介します。

その他の新連載

- アンジェラスの鐘／加藤美紀（教育学者）
- 知恵ある者たちのアフォリズム／加藤久美子（聖書学者）
- かたわらに、今、たたずんで／大野高志（日本基督教団牧師）
- 聖歌と賛歌——民衆霊性と多様性から
杉本ゆり（中世教会音楽研究者）
- 新米神父の開拓奮闘記／大西勇史（広島教区司祭）
- いのちの交わりの場——エコロジカルな暮らしのために
吉川まみ（環境学者）

継続連載

- 典札暦と季節の味わい（応用編）
柳谷晃子（食文化研究所主宰）



月刊『福音宣教』お申し込み方法

◇郵便局に備えつけの振替用紙にて年間定期購読料を下記口座までお振り込みください。ご入金確認後、発送いたします。

- 口座番号：00170-2-84745
- 加入者名：オリエンズ宗教研究所
- ご購読料：7500円（税・送料込）
- 備考欄：「福音宣教～月号から」とご希望の開始月をご明記ください。ご指定がなければ、最新号からお送りいたします。

年間定期購読料（年11回、8・9月合併号）7500円（税・送料込）一部定価600円＋税

オリエンズ宗教研究所 〒156-0043 東京都世田谷区松原 2-28-5
Tel 03-3322-7601 Fax 03-3325-5322 <https://www.oriens.or.jp/>



書籍案内

生きる意味

●キリスト教への問いかけ

清水正之・鶴岡賀雄・桑原直己・釘宮明美 編

A5判・312頁・2500円+税

ISBN978-4-87232-100-5

東日本大震災と原発事故によって喚起された「生きる意味」という愚直な問い。その答えを示すことこそが、「宗教」である。グローバル化に伴う経済格差、労働のあり方、宗教の役割など——危機にさらされている人間の救済の道を探る。

——— 目次 ———

- 序 「生きる意味への問いかけ」がなされる場をめぐって／鶴岡賀雄
- 1 東日本大震災と宗教／中下大樹
 - 2 宗教と社会と自治体の災害時協力／稲場圭信
 - 3 東日本大震災に思うこと／佐藤純一
 - 4 脱原発の倫理／久保文彦
 - 5 何のために働くのか／神谷秀樹
 - 6 グローバル化する経済の中の人間／勝俣 誠
 - 7 私たちの社会に希望はあるか？／宮台真司
 - 8 関係の倫理学／清水正之
 - 9 宗教が医療・医学に果たした役割、果たすことが期待されている役割／加藤 敏
 - 10 V・フランクルのロゴセラピー／桑原直己
 - 11 「神の子となる」——カルメルの霊性と共に／★九里 彰★
 - 12 「おかげさま」の言語化と生き方による霊性化／中野東禪
 - 13 エディット・シュタイン『十字架の学問』への道とその霊性／釘宮明美

オリエンス宗教研究所 TEL:03-3322-7601 FAX:03-3325-5322

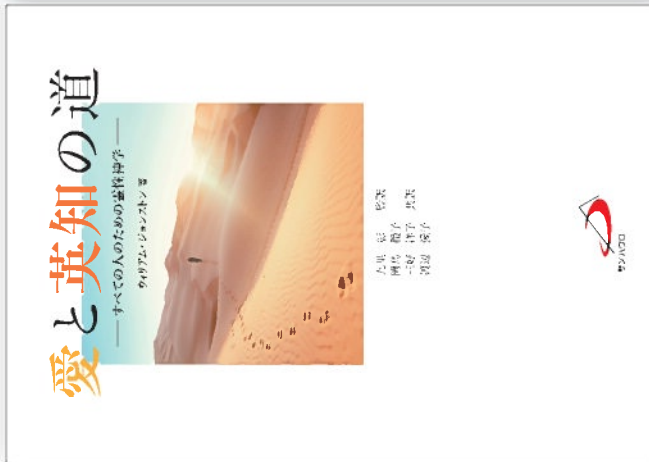
ご注文は全国のキリスト教書店、オリエンスHP、FAX、ネット書店などへ

愛と英知の道

—すべての人のための霊性神学—

ウィリアム・ジョンストン 著

九里 彰 監訳
岡島 禮子 三好 洋子 渡辺 愛子 共訳



西洋と東洋の神秘主義の伝統に通暁した著者が、21世紀というグローバル化し、「地球家族」となった現代世界のすべてのキリスト者に遺した霊的生涯の道しるべ。「すべての人は、聖職位階に属している人も、あるいはそれによって牧されている人も、皆聖性へと召されている。『あなたが聖なる者となること、これが神の望みである』と使徒が言っているとおりである」（『教会憲章』39）。

本書は、十字架の聖ヨハネが16世紀に向けてなしたことを、21世紀に向けて行なおうとする、ささやかな試みです。言いかえると、その目的は、命の水を渴望する人たちへ、観想的な祈りを教えることです。筆者は、主にキリスト信者を念頭に置いて筆を進めますが、真理の探究において私どもと心を一つにし

第一部 キリスト教の伝統

- 第1章 福音書(1)
- 第2章 福音書(2)
- 第3章 理性対神秘主義
- 第4章 神秘主義と愛
- 第5章 東方のキリスト教
- 第6章 愛を通して生まれる英知

第二部 対話

- 第7章 科学と神秘神学
- 第8章 修徳主義とアジア
- 第9章 神秘主義と根源的なエネルギ
- 第10章 英知と(空)

第三部 現代の神秘的な旅

- 第11章 信仰の旅
- 第12章 浄化の道
- 第13章 暗夜
- 第14章 (愛のうちにある)
- 第15章 花嫁と花婿
- 第16章 一 致
- 第17章 英知
- 第18章 活動
- 第19章 社会活動の神秘主義

ウィリアム・ジョンストン William Johnston S.J. (1925-2010)

北アイルランドのベルファストに生まれる。

イエズス会に入会し、26歳で来日。

32歳で司祭に叙階され、以後、英語、英文学、宗教学を上智大学などで講じる。また、東西の宗教思想、特に神秘主義の研究と普及に尽力。パドロー・アルベ、トマス・マートン、ダライ・ラマ、永井隆、遠藤周作との出会いを通して、次々と著作を発表。現代に則した霊性探求の先駆者として、世界に広く知られている。85歳で帰天。





福者マリー=ユジェーヌ神父に導かれて
十字架の聖ヨハネの
ひかりの道をゆく

伊従 信子 編・訳

ISBN978-4-88216-372-5 C0195

定価**540**円(税込)

【聖母文庫】**287**

**第2版
好評発売中!**



マリー = ユジェーヌ神父が十字架の聖ヨハネ
を生き、体験し、確認した教えなのです。
ですから、十六世紀の十字架の聖ヨハネの
教えは現代の人々にも十分適応されます。
また、神の命を伝え、実践的手段を示して
聖性の最も高い段階へと導こうとする彼の
配慮が伝わってきます。(「はじめに」より)

神と親しく生きる
いのりの道

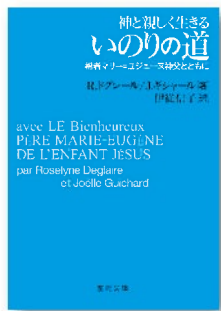
福者マリー=ユジェーヌ神父とともに

R. ドブレール / J. ギシャル 著

伊従 信子 訳

ISBN978-4-88216-307-7 C0195 【聖母文庫】**246**

定価**540**円(税込) 209頁



わたしは神をみたい
いのりの道をゆく

マリー=ユジェーヌ神父とともに

伊従 信子 編・著

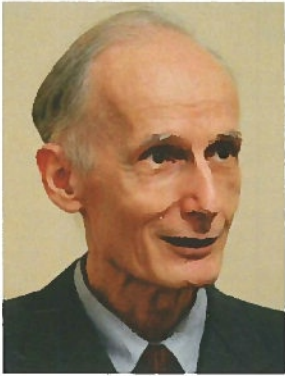
ISBN978-4-88216-339-8 C0195 【聖母文庫】**268**

定価**648**円(税込) 281頁



ご注文・お問い合わせ先

聖母の騎士社 ☎850-0012 長崎市本河内2-2-1
TEL.095-824-2080 FAX.095-823-5340



クラウス・リーゼンフーバー小著作集

(全五巻) 四六版・434頁～628頁

各巻 本体 3,800～5,000 円+税

著者は日本における中世哲学研究を牽引し、広汎にわたるキリスト教思想史の著述や編集・出版を手がけてきた。宗教家としても、キリスト教信者のみならず信仰に初めて出会う一般社会人と広く向き合い、講座や黙想会などを開いてキリスト教の精神と実践、信仰における超越との関わりを伝えている。人間の自己理解から出発し、聖書と哲学的な理解とを構築して、キリスト教信仰と霊性を現代人にとって生き生きとした形で展開している。講義、執筆活動をとおして西洋古代・中世さらに現代哲学思想をわかりやすく説く。この著作集は40余年の著述活動による150余の小論考からなっており、霊的な信仰理解と人間の経験とを結びつけて互いに支え合うものとして示そうとするものである。

人生の意義の解明と存在への問い。人生をめぐる哲学的・思想史的・人間論的な諸観点のもとで、聖書に基づいて第一根源である神を中心に展開する。

		ISBN
第1巻	I 超越体験 一宗教論 宗教の人間論的基礎付けを「意義への問い」という観点から考察した宗教哲学論文集。宗教的理解と経験がキリスト教的精神に基づいて絡み合い、人間の心を考察して全体の根源的な起源へ向ける。全11作、434p	定価(本体+税) 9784862852151 3,800 円+税
第2巻	II 真理と神秘 一聖書の黙想 日常生活を貫いて人間とかわる絶対的神秘を、聖書を紐解きつつ多面的な観点から浮き彫りにする。超越との関係を求める人に向けて、宗教的経験を解明する。全35作、544p	978-4862852175 4,600 円+税
第3巻	III 信仰と幸い 一キリスト教の本質 主の祈り、信条の命題に沿って信仰の全体像を解説。「山上の説教」をとおして人生における艱難辛苦にも焦点を合わせる。十字を切ることの意味など、聖霊の神学と霊性から信仰生活の深みを照らす。全38作、628p	9784862852205 5,000 円+税
第4巻	IV 思惟の歴史 一哲学・神学的小論 古代から中世のキリスト教思想史の考察の上に立脚し、現代における信仰をめぐる根本的な問いを洞察する。人間と神理解の可能性を新たに広げて信仰生活の深みに掘下げる。全41作、448p	9784862852212 4,000 円+税
第5巻	V 自己の解明 一根源への問いと坐禅による実践 信仰との関わり方の薄い現代人に向け、自己への問いから発した人生の意義と超越への方向付けを見出す実践的な道筋を示唆する。「今」を中心とする存在論・時間論を展開した最終講義「時間です!」収録。全35作、470p	9784862852229 4,200 円+税

●リーゼンフーバー、クラウス [Riesenhuber, Klaus]

1938年ドイツ生まれ。1958年イエズス会入会。1967年ミュンヘン大学哲学博士。同年来日。1969年上智大学文学部哲学科専任講師。1971年東京で司祭叙階。1974年上智大学中世思想研究所所長(～2004)。1981年上智大学教授。1989年上智大学神学博士。国公立大学で客員・非常勤講師。放送大学客員教授。2009年上智大学名誉教授。現在は哲学的人間論および宗教哲学などの講座を開講。

知 泉 書 館

〒113-0033 東京都文京区本郷 1-13-2 TEL: 03-3814-6161 FAX: 03-3814-6166

<http://www.chisen.co.jp>



奥村一郎選集

追悼 奥村一郎師

その時と場所で与えられた役割を
誠実に果たし続けた師が遺す珠玉の名編

四六判・上製・平均 240 頁・各巻とも **本体 2000 円**+税

日本の文化の中で福音が豊かに開花することを求めて祈り、思索した奥村一郎師。本選集は半世紀にわたるその膨大な著作、講演等の記録から特に重要と思われるものを選び、テーマ別に集成したものです。豊かな霊性をたたえた祈りの人であり、東西霊性交流など宗教対話のダイナミックな推進者。静謐さと情熱を併せ持つ著者が紡ぎ出してきた言葉の数々は、神と人に真摯に向かう姿を私たちに示してくれます。ときにユーモアを交えたその視座は、日本における福音宣教を願うすべての人々にとっての道標となることでしょう。

第1巻



慈悲と隣人愛 解説・西村恵信

日本文化に影響を与える仏教の光を当てつつ聖書を読み、キリスト教の本質理解に近づく。カトリックから禅へ／小事と瑣事／禅とキリスト教における靈的修行

第2巻



多文化に生きる宗教 解説・橋本裕明

宗教対話と霊性交流から得られた柔軟な視点から、日本での新たな宣教の可能性を示す。大いなる贈け——宗教対話／日本人とキリスト教——遠藤文学の魂

第3巻



日本の神学を求めて 解説・小野寺 功

日本の地に根ざす神学、その開花の可能性を福音の原点である相互愛から問いかける。日本の神学——根源への問い／相互愛／「信ずる」と「愛する」／新しい旋

第4巻



日本語とキリスト教 解説・阿部仲麻呂

関係性を重視する表現が中心となる日本語を手がかりに、ことばと信仰の関係を再考する。日本人の心とその精神構造／「ことば」から「みことば」へ／聖書と翻訳

第5巻



現代人と宗教 解説・鶴岡賀雄

宗教不在とされる現代、人々が直面する課題にキリスト教はどう向き合っているのか。現代人とキリスト教／偶像の喪失／退屈／「新しい人」としての真人

第6巻



永遠のいのち 解説・八木誠一

生と死、罪と恵み、正義と愛——人間の栄光と悲慘を見極め、永遠のいのちへの道を探る。嬰兒復帰／人間の栄光と悲慘／神は死せり／十字架の秘義／人間と世界と神

第7巻



カルメルの霊性 解説・高園泰子

愛ゆえにすべてを、命さえも失ったイエスを追い求めるカルメル。その霊性の根源に迫る。アビラのテレジア／十字架のヨハネ／小さきテレーズと東洋的霊性

第8巻



神に向かう〈祈り〉 解説・高橋重幸

東西における祈りの方法論を丹念にたどりつつ、キリスト教の祈りの本質を明らかにする。考える祈り、思う祈り、愛する祈り／現代における祈りの指導者／祈りとは何か？

第9巻



奉獻の道 解説・宮本久雄

すべての人にみずからを与えつくす奉獻生活を通して、人間そのものの神秘を見つめる。清らかな矛盾／世を変えるパン種として／清貧の誓願／現代に生きる修道者の霊性

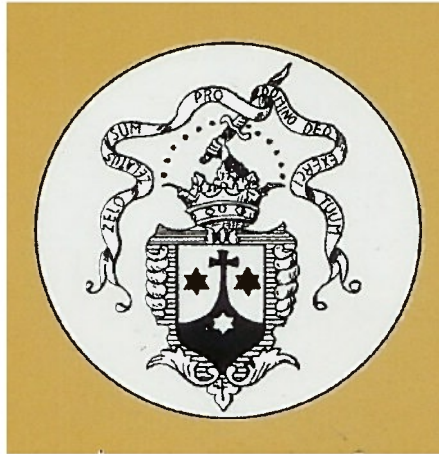
カルメル会会員、在俗会メンバーの方々には特別割引があります。直接お問い合わせ下さい。

オリエンズ宗教研究所 〒156-0043 世田谷区松原 2-28-5

TEL : 03-3322-7601 FAX : 03-3325-5322

ホームページ : <http://www.oriens.or.jp/>

カルメル会の企画案内



カルメル会の標語

Zelo zelatus sum pro Domino Deo exercituum

私は万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました（列王記上 19 : 10）



東京 上野毛 霊性センター

黙想企画 **上野毛 聖テレジア修道院 (黙想) **

祭日のミサに参加するために

チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

【クリスマス】

2020年 12月24日(木)～25日(金) 朝食《講話なし、夕食なし》

【聖週間】 聖木曜日から復活祭まで通して参加できます。またどの曜日からでも参加可能です。

4月9日(木) 夕食～4月12日(日) 朝食《講話なし、各食事つき》

聖書深読黙想会 (土曜日18時～日曜日16時)

5月30日(土)～31日(日) カルメル会士

7月 4日(土)～ 5日(日)

10月31日(土)～11月1日(日)

2021年 2月27日(土)～28日(日)

一日黙想会：(水曜日10時～16時・昼食付) カルメル会士

《 カルメル会聖人に学ぶ黙想会 》

1月22日 今泉健神父

2月19日 ウィリー神父 三位一体のエリザベット

3月25日 ジョニー神父

4月15日(水) 5月20日(水) 6月17日(水) 7月22日(水)

9月16日(水) 10月21日(水) 11月18日(水) 12月16日(水)

2021年 1月20日(水) 2月17日(水) 3月17日(水)

一泊黙想会 (土曜日16時～日曜日16時)

1月18日～19日 志村武神父

3月14日～15日 志村武神父

4月18日(土)～19日(日) 今泉健神父

7月11日(土)～12日(日) 今泉健神父

10月24日(土)～25日(日) 今泉健神父

2021年

1月23日(土)～24日(日) 今泉健神父

3月13日(土)～14日(日) 今泉健神父

奉獻生活者のための黙想会 (初日17時～最終日朝食) カルメル会士

12月27日(金)～1月 5日(日)

2020年 8月 1日(土)～8月10日(月)

8月16日(日)～8月25日(火)

12月27日(日)～1月 5日(火)

青年黙想会(男女) 35歳位まで(初日16時～翌日16時) カルメル会士

2月15日(土)～16日(日)

5月15日(金)～17日(日)

2021年 3月26日(金)～28日(日)

召命黙想会(男女) 40歳まで(初日16時～最終日16時) カルメル会士

11月 6日(金)～ 8日(日)

特別黙想会(初日20時～最終日16時) Sr. 伊従信子(ノートルダム・ド・ヴィ)

11月13日(金)～15日(日)

- * 日程、指導司祭は変更される可能性もあります。お申込みの際には、ホームページ (<http://www.carmel-monastery.jp>) なども合わせてご覧下さい。
- * こちらに掲載されている以外の日時にもご利用可能です(グループ、個人いずれも)。お気軽にお問い合わせください。
- * 間違いを避けるため、お問い合わせはFAX・はがき・Eメール等、文書でお送り頂きますと幸いです。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25

聖テレジア修道院(黙想)

Tel:03-5706-7355 Fax:03-3704-1789

Eメール: mokusou@carmel-monastery.jp

ホームページ: <http://www.carmel-monastery.jp>



カルメル青年黙想会

あなたの信仰があなたを救った



- 日時 : 2020年2月15日(土)16時～16日(月)16時
場所 : カルメル会 聖テレジア修道院(黙想)
対象 : 青年男女(16歳～35歳まで)
定員 : 20名
費用 : 一般 5,000円 学生 3,000円
締切 : 2020年2月8日(土)
指導 : カルメル会士

※住所・氏名・性別・年齢・電話番号・所属教会名を記入し、ハガキ・FAX・E-mailの何れかで下記まで。折り返し、こちらよりご連絡させていただきます。

158-0093 世田谷区上野毛2-14-25

カルメル会 聖テレジア修道院(黙想)

電話 : 03(5706)7355

FAX : 03(3704)1789

E-mail : mokusou@carmel-monastery.jp

一泊黙想会

5月より新しく一泊黙想会を開始致します。皆様の参加をお待ちしています。

場所: カルメル会聖テレジア修道院(黙想)

指導: 志村 武神父

会費: ¥6500

日時: 2019年 5月25日(土)~26日(日) 16時開始、翌日16時まで

7月 6日(土)~ 7日(日) //

11月 9日(土)~10日(日) //

2020年 1月 18日(土)~19日(日) //

3月14日(土)~15日(日) //

*お問合せ・お申込み

カルメル会聖テレジア修道院(黙想)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25

TEL. 03-5706-7355

FAX. 03-3704-1789

Eメール:mokusou@carmel-monastery.jp





宇治カルメル会 黙想会案内 (2020年1月～3月)

【一般のための黙想】・1泊2日(午後5時～午後4時)

1月18日(土)～19日(日) **この時代をイエスと生きる** 中川博道神父

【聖書深読黙想会】(午前10時～午後4時)

1月25日(土) 中川博道神父

3月14日(土) 中川博道神父

【水曜の黙想】(午前10時～午後4時)

2月26日(水) **復活への道〈灰の水曜日〉** 中川博道神父

~~3月18日(水) **まだ眠っているのか?** Sr.ロザ~~ **中止**

【土曜の黙想】(午後1時～午後6時)

3月7日(土) **苦しみの中イエス** 中川博道神父

【四旬節の黙想】(午後5時～午後4時)

3月7日(土)～8日(日) **「荒野での試み」** 中川博道神父 → 志村武神父 **変更**

【奉献生活者の黙想】(午後5時～午前9時)

12月27日(金)～1月5日(日) 中川博道神父

祭日のミサに参加するために

チェックイン午後4時以降可 チェックアウト午前11:30(講話なし 各食事つき)

【クリスマス】

12月24日(火)～12月25日(水)

—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします—

☆お申し込みは電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールでお名前と連絡先を御記入の上、お申込み下さい。お電話はなるべく午前9時～午後5時の間にお願い致します。受付が休みの場合はその場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様をお願い致します。



〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)
Tel 0774-32-7016 Fax 0774-32-7457
E-Mail:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp
<http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/>

カルメル修道会 土曜静修 in 名古屋

—カルメル会士とともに過ごす聖母の土曜日—

日 時 : 2020年 1月11日 (土) 13時から 17時

場 所 : カルメル修道会 日比野 (本部) 修道院 (カトリック日比野教会)

プログラム : 13時 ~ 講話・黙想など
16時 ~ ミサ (ミサ中に教会の祈り)、サルヴェ・レジーナ (ミサ後)
17時 解散

- ・受付開始は12時半頃。 ・プログラム途中、ゆるしの秘跡の時間を設けます。
- ・プログラムに必要な「祈りのリーフレット類」は、こちらで準備いたします。

そ の 他 : 参加のための事前連絡は不要です。当日、直接会場にお越し下さい。
(尚、当日は、1,000円 程度のご寄付を宜しくお願いいたします。)

問い合わせ : 郵便、FAX、E-mail の何れかで「カルメル修道会 一日静修係」まで。

郵便 456-0062 名古屋市 熱田区 大宝 4-5-17

FAX 052-681-6445

E-mail hibino@carmel.or.jp

今後のスケジュールなど

★次の土曜静修は、2020年2月1日(土)。尚、3月以降の予定は、現時点では未定です。
尚、静修は第1土曜日とは限りませんので、[霊性センター](#)、[ホームページ](#)等でご確認下さい。

【ホームページ】 <http://www.carmel-monastery.jp>

< 主催 > 男子跣足カルメル修道会 日比野 (本部) 修道院 (大瀬神父・古川神父)

金沢黙想案内

毎月第一日曜日 三馬教会 聖堂

14：30～ 講話

15：30～ ミサ（ラテン語聖歌）

土曜フレックスタイム静修

毎月第三土曜日（第二の場合あり）三馬教会 聖堂

14：00～ 講話

14：30～ ベネディクション・聖体祭儀

15：30～ サルヴェ レジナ 終了

沈黙の祈りのうちに神様と語らい、またご聖体のイエス様と
共に静かに憩いの時を過ごし、心をリフレッシュしましょう



カルメル霊性センター

〒921-8162

金沢市三馬3丁目324番地

カルメル会 三馬修道院

三上 和久神父まで

Tel 076-244-7788

宇治聖テレジア修道院（黙想）の 「建築基金」への献金のお願い

主の平和がいつも皆様の上にありますように

宇治の黙想の家は、1962年に建てられ、すでに57年の歳月が経っております。老朽化が進み、いろいろな点で支障をきたしております。そのため、新しく建て直す必要性が出てまいりました。会内で検討を続けてまいりましたが、財源に余裕がなく、新築計画が頓挫しております。

黙想の家は、キリスト者の霊的生活を培うために無くてはならないものです。またカルメル修道会は、霊的指導を会の固有使徒職としております。この意味でも、また日本の教会のためにも、静かに黙想する場所を、信徒の皆様のために確保してゆきたいと願っております。

建築資金の確保のため、少額でも結構ですので、皆様の御協力をいただければ幸いです。お志のある方は、以下の会本部の銀行口座か郵便貯金口座にお振込みください。その際は、誠にお手数ですが、お名前とご住所、振込み日と金額を、郵便かファックスで本部までお知らせくださるようお願い申し上げます。よろしくお願いたします。

三井住友銀行
上前津（カミマエヅ）支店
普通口座：7205805
名義：男子洗足カルメル修道会

郵貯銀行
記号：10040
口座番号：56845391
名義：男子洗足カルメル修道会



男子洗足カルメル修道会本部
〒456-0062 愛知県名古屋市熱田区大宝 4-5-17
Tel: 052-671-1558 Fax: 052-681-6445

諸所の企画案内



真命山 霊性交流センター
ノートルダム・ド・ヴィ
サダナ瞑想
慈しみ深き会
ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院
詩編の会

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご照会下さい。
よろしくお願い致します。

真命山 2020年 — 祈りの集いのご案内

「祈り」

最高の神秘体験として御聖体の秘跡を戴いてキリストと出会う

毎月第2木曜日（10:00～15:00）

指導者 フランコ神父

- 1月 9日 「キリストに結ばれる」：入信の秘跡の完成
2月13日 「キリストに生かされて生きる」：永遠のいのちの糧をいただく
3月12日 「キリストとともに死ぬ」：ほふられた小羊の生け贄に倣う
4月 9日 「過越の神秘の体験」：復活されたキリストと出会う
5月14日 「聖霊に生かされて歩む」：聖霊降臨の恵みの中で生きる
6月11日 「キリストの現存の神秘」：「みことば」は私たちの間に宿られる
7月 9日 「一致のしるし、愛のきずな」御聖体から生まれる教会
* * *
- 9月10日 「御聖体によるいろいろな奇跡」：ご聖体に対する信心の歴史
10月 8日 「キリストの現存」：信仰のしるしである御聖櫃の美術
11月12日 「死に勝たれた救い主の勝利」：終末論の宴
12月10日 「私たちの間に生まれるキリスト」：御ことばは「肉」となられた



申込先

真命山 諸宗教対話センター

865-0133 熊本県玉名郡和水町蜻浦1391-7

e-mail: shinmeizan@gmail.com

前晚17:00まで可

www.shinmeizan.com

講話と祈りのつどい

【2020年2月1日（土）】

祈り 愛の交流



今年から、神と親しく生きる『いのりの道』（R.ドグレール、J.ギシャール共著、伊従 信子訳 ドン・ボスコ社）をテキストとして使用します。

講話・祈り・分かち合い 2時～午後5時30分

担当 中山真里

場 所：ノートルダム・ド・ヴィ（東京・上石神井）



参加費：200円

ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254

e-mail notredamedevie.japan@gmail.com

サダナ瞑想 ～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

詳細、補充情報はホームページをご覧ください。

<http://sadhana.jesuits.or.jp/>

込み受付・・開始日の8日前まで

コース	日時	指導	開催場所	申込み
フォローアップ 新 I	1/19(日) 9:30-17:00	サダナ チーム	ニコラバレ修道院 1F(四ツ谷) ※16時からミサあり。 椅子での黙想です。	来間(くるま) 裕美子※ Tel 090-5325-2518 045-577-0740 sadhana12378@yahoo. co.jp
サダナ I	2/8(日)17:30- 11(火)16:00	Fr植栗	カルメル修道会上野 毛修道院 黙想の家 (上野毛)	同上
サダナ II	3/18(水)17:30- 22(日)16:00	Fr植栗	汚れなきマリア修道 会 町田修道院	同上

※申し込まれると確認メールが返信されます。確認メールが届かない場合は、090-5325-2518(来間)までお問い合わせください。

※不在の場合は、渡辺由子 Tel&Fax : 042-325-7554

◆サダナ I (入門 A.B.C) …体の営みと想像とを生かして祈りを深め「神との出会い」と「心の解放」をめざします。

◆サダナ II … I をいっそう深める。身体・感・想像・自分史が、神との交わりのもと統合されます。

◆フォローアップ…サダナ I を終えた方。

◆サダナ新 I …入門 A.B.C (サダナ I) に参加された方の引き続きの前進のために、その良さを噛みしめながら進みます。以前体験したことを復習しながらの歩み出しです。



念祷の集い

～沈黙の内に神を求めて～

場所：イグナチオ教会岐部ホール404号室

12月のみマリア聖堂（ミサあり）

時間：以下の木曜日

14：00～16：00（講話と念祷）

主催：慈しみ深き会



くのり

指導：九里 彰 神父（カルメル修道会）

【2020年】

ウィリアム・ジョンストン著『愛と英知の道—すべての人のための霊性神学—』
(サン・パウロ)を少しずつ味わいながら、共に祈ってゆきましょう。

- | | | |
|--------|-----|-------------|
| 1月23日 | 第一部 | キリスト教の伝統 |
| | 第1章 | 背景（1） |
| 3月26日 | 第2章 | 背景（2） |
| 5月28日 | 第3章 | 理性対神秘主義 |
| 7月23日 | 第4章 | 神秘主義と愛 |
| 9月24日 | 第5章 | 東方のキリスト教 |
| 11月19日 | 第6章 | 愛を通して生まれる英知 |
| 12月17日 | 第二部 | 対話 |
| | 第7章 | 科学と神秘主義 |

*参加費無料（献金歓迎）

*問い合わせ先：042-473-6287 篠原

※各黙想会内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院 (2020年)

◎ 所在地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1
Tel : 077-579-7580
Fax : 077-579-3804
E-メール : karainorind92@mbe.nifty.com

◎ 交通： JR 京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。
琵琶湖の方へ徒歩 約 13 分

◎ 黙 想

A. 8 日間の個人指導による黙想

初日は、18 時の夕食で始まり、最終日は昼食で終わります。

- ① 2020 年 5 月 10 日 (日) ~ 5 月 18 日 (月)
- ② 8 月 14 日 (金) ~ 8 月 22 日 (土)
- ③ 10 月 4 日 (日) ~ 10 月 12 日 (月)
- ④ 12 月 27 日 (日) ~ 2021 年 1 月 4 日 (月)

B. 祈りの体験：週末 3 日間 (金曜日の夕食～日曜日の昼食)

【神との親しさの中で日常を生きるために】

- ① 2020 年 2 月 7 日 (金) ~ 2 月 9 日 (日)
- ② 2 月 28 日 (金) ~ 3 月 1 日 (日)
- ③ 3 月 27 日 (金) ~ 3 月 29 日 (日)
- ④ 6 月 12 日 (金) ~ 6 月 14 日 (日)
- ⑤ 7 月 17 日 (金) ~ 7 月 19 日 (日)
- ⑥ 9 月 18 日 (金) ~ 9 月 20 日 (日)
- ⑦ 11 月 13 日 (金) ~ 11 月 15 日 (日)

C. 講話 黙想 (奉献生活者のため)

2020年6月22日(月)夕食～6月30日(火)昼食
九里 彰 師 (カルメル会)

- ◎ 対 象： 信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。
- ◎ 霊的同伴者： 司祭、ノートルダム教育修道女会会員、その他
- ◎ 申込み： 1) 氏名(フリガナ) 2) 〒住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号)を書いて郵送、または、Faxで「黙想係」Sr.松本佳子へ申し込んでください。

唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

8日間の黙想は 先着順 11名、週末3日間の黙想は先着2名 です。

いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。

D. 独身女子青年の集い

2020年7月25日(土)～26日(日)


9月12日(土)～13日(日)

11月7日(土)～8日(日)

申込み：唐崎修道院 Sr. 桂川美代 (TEL 077-579-2884)

- E. その他： 司祭同伴の黙想会やグループ研修会のために修道院をご利用なさいたい方はご相談ください。

(但し、上記の日程と8月1日～8月9日、9月1日～9月7日を除きます。)



午後の静修<講話・念祷・ミサ>へのおさそい

《わたしが生きることゝ渴く神》

— 灰の土曜日に —

日 時：2020年2月29日(土)
12時～16時(受付11時半)

指 導：中川博道神父 (カルメル修道会)

対 象：どなたでもご参加ください。

※実費費用の為に献金をお願いします。

上履きをご持参ください。

要申込：住所・氏名・電話番号・所属教会

をご記入の上、

FAX 又はメールにて (返信します)

定員になり次第〆切 (12月2日から受付開始です)

FAX:045-402-5131

e-mail:shihennokai@gmail.com

場 所：聖パウロ修道会 若葉修道院

東京都新宿区若葉1-5

JR中央線/営団地下鉄 丸ノ内線・南北線 「四ツ谷」駅下車

サンパウロ→ドンボスコ→ファミリーマートを左折

→甘栗太郎を右折→道なりに右折→90m直進

四ツ谷小学校の正面

主催：「詩編の会」

問合せ：TEL/FAX：045-402-5131 (藤井)

e-mail:shihennokai@gmail.com



朝日カルチャーセンターの 通信深読「聖書に親しむ」へのご案内

「通信深読」は、「聖書深読黙想会」にさまざまな理由で参加できない方々のために考案されました。参加を希望される方は、下記の朝日カルチャーセンター通信講座課へお申し込みください。手続きがすめば、次のような手順でこの「通信深読」が行われてゆきます。

ファースト・ステップ

「個人素読」：毎月、朝日カルチャーセンターから指定された聖書深読箇所を、ひとりで繰り返し読み、み言葉を自由に黙想します。

セカンド・ステップ

「個人素読」の報告書作成：送られてきた用紙（B5用紙）に、深読箇所特に印象に残った節を二三ヶ所選び、番号と○や△や×などの記号を記し、「全」には、全体の印象を表す、ご自分の体験と結びついた具体的な名詞を、「照」にはみ言葉を実践する決意を示す動詞を書き込みます。さらに「所感」や「近況報告・質問」の欄に、ご自由に自分の考えや質問等を記入します。

サード・ステップ

（参加者から朝日カルチャーセンターへ送られた「個人素読」の報告書は、参加者全員のものまとめられ、講師へ送られます。）

講師が各参加者の「個人素読」の報告書に対しコメントし、深読箇所の「解説」（A4 2枚）と共に、朝日カルチャーセンターへ送り返します。

フォース・ステップ

コメントされた全員の「個人素読」の報告書（「近況報告・質問」はプライベートなこともあるので、削除されます）と「総合素読表」、そして講師の「解説」が冊子となり、各参加者に、センターから送られます。

* 費用：6ヶ月（20,360円）。納入は4月、7月、10月、1月。継続の場合19,130円。

* 講師：九里彰師（奇数月）、今泉健師（偶数月）

* 問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル

私書箱21号 朝日カルチャーセンター通信講座課

Tel: 03-3344-2527（直通）

『靈性センターニュース』

* 郵送お申込みのご案内 *

ご郵送は、基本的に1月から12月までとなります。
途中からお申し込みの場合は、お申し込みの翌月から12月までとなります。
例：6月申込の場合は、7月号~12月号（但し8月号は休刊）となり、
5冊となります。ご希望の月数×250円程度の献金を下記口座
へお振込み頂ければ、幸いです。

郵便番号口座： 00910-6-333184
加入者名： カルメル靈性センターニュース事務局

なお、振替用紙の通信欄には、「郵送申込」（何月から何月まで）、また氏名、
郵便番号・住所、電話、Fax等ご明記ください。

また、郵送お申込とは別に、ご献金もお願いしております。

その場合は、「献金」とご記入お願い致します。

何かご質問等があれば、事務局の方にご連絡ください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御藏山 39-12
カルメル会宇治修道院 「靈性センターニュース事務局」
Tel:0774-32-7456
Fax:0774-32-7457

reisei@carmel-monastery.jp

男子跣足カルメル修道会のホームページ

<http://www.carmel-monastery.jp>

Google:「カルメル会」で検索できます



男子跣足カルメル修道会
Order of Discalced Carmelites

靈性センターニュース掲載の情報も載っています

あとがき

主がお生まれになって 2020 年の到来、おめでとうございます。この年が皆様にとって主の平和と祝福の年となりますように、「霊性センターニュース」のスタッフ一同お祈り申し上げます。

様々な憶測が飛び交う新年の幕開けを皆様はどのようにお過ごしでしょうか。混迷の中にあって、“宗教離れ”も取りざたされる時代。主の黄金律「人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい」(マタイ 7.12)が人類を平和な世界へと導き続けてきた主要因のひとつとらえる研究を目にしました(参照:スティーブン・ピンカー『暴力の人類史』)。

確かにセクト的な宗派間の対立や枠組みは緩和されながらも、イエスの生き方へのあこがれは増していくように思います。地球人口の3分の一を占めるキリスト者が一丸となってイエスを追い求めて生きて行くことの中に、確かな未来への希望を見出しうる時代のようにも思えます。

「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたとともにいる」(マタイ 28-20)といわれる主との出会いを深めながら、主と共に歩む一年であれますように。

中川博道(o.c.d.)



~~~~製本／発送のご協力お願い~~~~

「霊性センターニュース」の製本/発送を、2017年7月号より宇治修道院で行う事になりました。発送作業は梱包・宛名ラベル貼りと確認チェック等です。皆様のご協力をお待ちしております。初めての方、不定期参加も大歓迎です。

次回の製本/発送日 **1月24日(金) 午前10時頃から**

**宇治修道院信徒会館**

※ご協力いただける方は、製本/発送日をご確認の上、お越しく下さい。

霊性センター事務局 ☎0774-32-7456